

令和4年度中野区学力にかかわる調査の結果について

1 調査の趣旨

- 各学校において、自校の児童・生徒一人ひとりの学習状況や学年の傾向を踏まえて、教育課程や指導の改善・充実を図る。
- 調査の結果を基に児童・生徒が自身の学習上の課題を認識し、その後の学習に役立てる。
- 各教科の目標や内容に照らした学習の実施状況を把握し、区内小・中学校における教育課程の実施状況についての課題を明らかにして教育委員会の施策及び事業に生かす。

2 学習指導要領改訂に伴う観点等の変更

- 令和2年度の学習指導要領の改訂によって、小学校の評価の観点が、国語、算数ともに「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に変更されたため、令和3年度、本調査の小学校2年生から中学校1年生の評価の観点も3観点に変更した。令和3年度に中学校でも学習指導要領が全面実施となり、令和4年度に本調査の中学校2、3年生の評価の観点も「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に変更した。
- 令和3年度より社会と理科2教科の調査を実施しないこととした。
※これまでの調査実績を分析した結果、社会と理科の調査問題については知識・技能のみを問う傾向が強く、学習指導要領を踏まえた学習内容を測ることが難しいと判断した。

3 調査の実施概要

(1) 対象学年及び教科 ※ 調査範囲は前年度の学習範囲

学年	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
対象人数(人)	1786	1666	1683	1563	1509	1114	1032	1000
国語	○	○	○	○	○	○	○	○
算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	○
英語							○	○

(2) 実施方法 ペーパーテスト形式による調査

(3) 実施時期 令和4年4月11日～15日の中で1日

4 調査の方法・内容

- (1) 本調査では、学習指導要領の目標、内容の学習状況を把握するため、教科の観点ごとに問題を作成する。
- (2) 出題した学習内容や問題の形式、難易度等を考慮し、あらかじめ「おおむね満足である状況」を示す数値を「目標値」として設置した。この目標値に到達した児童・生徒の割合(達成率)を基に、学習状況を把握する。
※教育委員会は、達成率が70%であれば、区内の70%の児童・生徒が、「おおむね満足できる状況」にあることを示しており、全ての教科の全ての観点の達成率を70%以上にすることを目指している。
- (3) 学習指導要領の全面実施にともない、評価の観点が変更されたことから、項目数はこれまでの86項目から令和3年度は44項目、令和4年度からは36項目に変更となった(表1)。

【表1】各学年の評価の観点と項目数

	観 点	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	教科 と項目数
国語	「知識・技能」	○	○	○	○	○	○	○	○	16
	「思考・判断・表現」	○	○	○	○	○	○	○	○	
算数・ 数学	「知識・技能」	○	○	○	○	○	○	○	○	16
	「思考・判断・表現」	○	○	○	○	○	○	○	○	
英語	「知識・技能」	△	△	△	△	△	△	○	○	4
	「思考・判断・表現」	△	△	△	△	△	△	○	○	
評価項目数		4	4	4	4	4	4	6	6	36

※網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

5 調査結果の分析

(1) 目標値を達成した項目数の割合について

【表2】目標値に達した児童・生徒の割合が70%以上の項目数の経年比較

年 度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
項目数	48/86	62/86	36/44	20/36
目標値を達成した項目数の割合 (%)	55.8	72.1	81.8	55.6%

(2) 観点ごとの達成率について

【表3】令和4年度 観点ごとの達成率

<国語>令和4年度 観点ごとの達成率

		話す・聞く力			書く力			読む力			言語についての知識・理解・技能			知識・技能		思考・判断・表現	
年度		H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	R3	R4	R3	R4
小学校	2年	72.0	75.5	△	55.6	57.0	△	59.4	71.1	△	80.8	86.2	△	80.5	80.6	65.9	69.1
	3年	71.1	84.4	△	66.9	78.2	△	74.9	83.3	△	84.7	84.8	△	73.3	▲72.7	66.9	70.4
	4年	61.7	70.4	△	64.7	73.6	△	68.4	75.2	△	69.4	77.0	△	71.9	▲69.3	61.0	63.2
	5年	71.5	77.8	△	76.3	80.3	△	81.2	85.5	△	72.2	69.8	△	70.1	▲69.1	67.9	▲67.7
	6年	73.1	76.3	△	81.2	85.1	△	68.5	72.2	△	79.0	78.5	△	78.7	▲76.7	71.7	▲69.2
中学校	1年	64.4	77.5	△	77.0	84.2	△	72.4	76.4	△	70.3	69.8	△	69.8	73.5	74.7	▲67.7
	2年	75.0	83.1	81.2	79.5	81.6	82.7	75.2	79.8	81.0	62.5	69.4	68.2	△	74.1	△	74.1
	3年	88.4	89.1	90.9	76.0	82.4	79.6	72.5	78.9	77.5	72.6	79.0	77.3	△	69.7	△	68.7

▲R4が、R3と比べて下がっている観点

<算数・数学> 令和4年度 観点ごとの達成率

		数学的な考え方			数量や図形についての技能			数量や図形についての知識・理解			知識・技能		思考・判断・表現	
		H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	R3	R4	R3	R4
小学校	2年生	75.7	82.6		86.0	91.3		81.6	86.8		88.4	88.4	78.1	78.9
	3年生	74.5	79.1		80.3	85.6		80.1	79.6		79.1	▲77.1	70.9	▲70.8
	4年生	78.2	74.7		79.1	80.6		83.4	84.2		82.3	▲79.6	65.0	66.3
	5年生	74.0	78.6		78.1	80.0		72.2	76.5		78.4	▲73.8	72.2	▲59.2
	6年生	75.9	74.8		76.7	73.8		76.4	75.4		77.1	▲74.3	72.6	▲70.4
中学校	1年生	68.4	71.2		71.8	76.1		72.0	71.4		71.5	▲70.0	71.9	▲69.9
	2年生	59.9	64.9	71.4	71.0	80.1	78.7	66.2	65.2	73.6		68.8		68.7
	3年生	71.2	69.0	68.0	74.7	79.3	77.0	68.4	70.5	70.6		73.2		71.6

▲R4が、R3と比べて下がっている観点

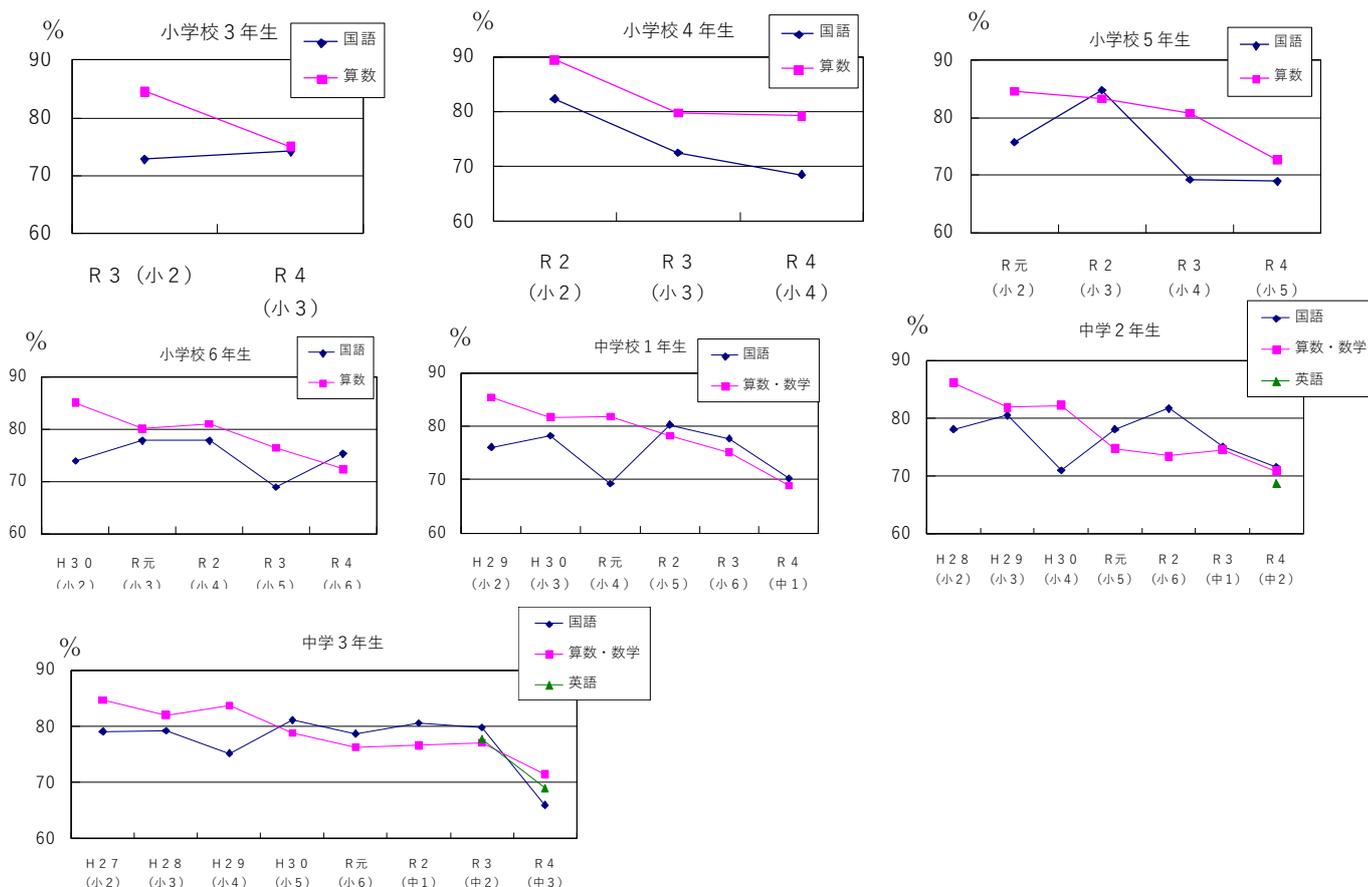
<英語> 令和4年度 観点ごとの達成率

		外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解			知識・技能	思考・判断・表現
		H31	R2	R3	H31	R2	R3	H31	R2	R3	R4	R4
中学校	2年生	67.7	77.5	74.9	69.8	80.0	77.1	67.7	75.7	75.0	75.3	58.3
	3年生	74.7	79.3	77.6	82.5	88.2	86.5	72.5	80.0	76.2	69.3	71.2

- ①教科ごとに見ると、国語は16項目中7項目、算数・数学は16項目中11項目、英語は4項目中2項目となった。このことから、算数・数学の「知識・技能」では、小・中学校の学習が定着していることが分かる。
- ②小・中学校ともに、「知識・技能」については、達成率70%を達成している学年や教科が多いが、「思考・判断・表現」については、小学校第4学年の国語、小学校第5学年の算数、中学校第2学年の英語で達成率が65%未満で低くなっている。
- ③記述形式の問題で、無解答率が高い傾向にある。特に、国語の目的にあった文章を書く問題と英語の資料や会話の内容に合った英文を書く問題で、無回答が多かった。

(3) 同一母集団の達成率の経年変化について

【図1】同一母集団の経年変化（達成率）



- ①国語については、小学校4年生時の達成率が下がり、小学校5年生から再び上昇する傾向がある。令和4年度は、特に「書くこと」に関する問題において、正答率が目標値より2～4ポイント低かった。小学校1，2年生から、相手や目的を意識し、伝えたいことを明確になるように、事柄の順序に沿って書き表す継続的な指導が必要である。
- ②算数・数学については、学年が進むとともに達成率が下がり続ける傾向がある。個々の学習状況に応じて、前学年までの学習内容に立ち戻って学び直しをしたり、反復学習等による補充的な指導を取り入れることによって、基礎的な学習内容の確実な定着をはかる必要がある。

(4) 令和4年度の「主体的に学習に取り組む態度」と他の観点との関連に注目した分析

	観 点	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
国語	「主体的に学習に取り組む態度」	○				○	○	○	
	「知識・技能」	80.6	72.7	69.3	69.1	76.7	73.5	74.1	69.7
	「思考・判断・表現」	69.1	70.4	63.2	67.7	69.2	67.7	74.1	68.7
算数・数学	「主体的に学習に取り組む態度」	○	○	○					
	「知識・技能」	88.4	77.1	79.6	73.8	74.3	70.0	68.8	73.2
	「思考・判断・表現」	78.9	70.8	66.3	59.2	70.4	69.9	68.7	71.6
英語	「主体的に学習に取り組む態度」								
	「知識・技能」							75.3	69.4
	「思考・判断・表現」							58.3	71.2

※網掛けは目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

◆結果

- ・国語の「主体的に学習に取り組む態度」は小学校3～5年生で達成率が70%未満と低いが、小学校6年生～中学校2年生で達成率が70%以上と高かった。
- ・算数は小学校2～4年生で達成率が70%以上と高いが、小学校5年生以上で70%未満となっている。
- ・英語は2学年とも達成率が70%未満であった。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」がともに達成率70%未満の学年・教科（小4国語、小5国語、中3国語、中2数学）に関しては、「主体的に学習に取り組む態度」も65%以下と低い数値になっている。

◆分析

①「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えている場合

○「知識・技能」

・国語

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えている4学年のうち、
⇒達成率70%以上…4学年（全学年）

・算数・数学

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えている3学年のうち
⇒達成率70%以上…3学年（現学年）

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が高い学年は、「知識・技能」も身に付いている傾向がある。

○「思考・判断・表現」

・国語

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えている4学年のうち

⇒達成率70%以上・・・1学年

⇒達成率70%未満・・・3学年（うち2学年が69%以上）

・算数・数学

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えている3学年のうち

⇒達成率70%以上・・・2学年

⇒達成率70%未満・・・1学年

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が高い学年・教科でも、「思考・判断・表現」の達成率が70%を超えていない学年・教科も多いが、達成率69%の学年も複数あり、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」関連については今後の結果も注視していく。

②「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%未満の場合の各観点の達成率

○「知識・技能」

・国語

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えていない4学年のうち

⇒達成率70%以上・・・1学年

⇒達成率70%未満・・・3学年

・算数・数学

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えていない5学年のうち

⇒達成率70%以上・・・2学年

⇒達成率70%未満・・・3学年

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%未満の場合、3分の2の学年・教科の「知識・技能」が達成率70%未満となっており、やはり「主体的に学習に取り組む態度」と「知識・技能」には、関連が高い結果となった。

○「思考・判断・表現」

・国語

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えていない4学年のうち

⇒達成率70%以上・・・1学年

⇒達成率70%未満・・・3学年

・算数・数学

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%を超えていない5学年のうち

⇒達成率70%以上・・・2学年

⇒達成率70%未満・・・3学年

「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が70%未満の場合、3分の2の学年・教科の「思考・判断・表現」が達成率70%未満となっており、「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が低い場合は、「思考・判断・表現」の達成率も低く、関連が高い結果となった。

6 今後の対応

本調査は、全ての項目で目標値を達成することを目指しているが、昨年度に比べて、達成率が下がっている。今後は、「中野区基本計画」（令和3年9月）に示されているように、「誰一人取り残さない」という視点で、すべての児童・生徒が確かな学力を身に付けることができるよう、ICTを効果的に活用し、一人ひとりの学習状況に応じた個別最適な学習と協働的な学びを組み合わせた新しい学び方の実現を図るために以下の項目について着実に実行していく。

- (1) 課題となる学年、教科の学力の定着に向けて、教科担任制や習熟度別少人数指導の編制の工夫、任期付短時間勤務教員等を活用した指導方法や指導体制のさらなる充実を目指し、区全体の調査結果を周知し、指導・助言を行う。
- (2) 教員研修では、課題となる学年や教科の指導に関する内容が充実するように努める。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図るために、「主体的に学習に取り組む態度」を高めるための授業の工夫やICTの効果的な活用方法、問題解決学習の方法等について研修の内容を充実させる。
- (3) 今回の調査で、前学年までの学習の基礎・基本の定着を確実にすることも「主体的に学習に取り組む態度」を育てていくためには大切であることがわかった。特に「読むこと・書くこと」が困難な児童・生徒への支援については、音声読み上げやキーボード入力等を取り入れるなど合理的配慮が確実に受けられるよう校内の連携体制を強化していく。
- (4) 国語の目的にあった文章を書く問題と英語の資料や会話の内容に合った英文を書く問題で、無回答が多かったことについては、今後詳細な分析を進めていく。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響で学習活動が制限されている中で、ICTを積極的に活用して、発表場面を動画で撮影して視聴し合ったり、クラウドに保存したデータをクラスで共有して考察したりするなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進んでいる学校の取組を周知していく。
- (6) 各学校においては自校の結果についての分析を行い、児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にし、具体的な方策を検討した「授業改善プラン」を作成した。全教員が共通理解した上で、日々の授業改善を図ることができるように「授業改善プラン」に基づいた指導・助言を行う。
- (7) 区全体の調査結果を、中野区教育委員会ホームページ上で公開することで保護者や区民にも広く周知し、学校・地域・家庭が連携して学力向上に取り組めるような支援を行っていく。